

---

# セカイの中で

朱夏

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

セカイの中で

### 【Nコード】

N6785V

### 【作者名】

朱夏

### 【あらすじ】

走り続ける8人、待ち構えるのはテキ。一人、また一人と欠けて行く中でどこまでも走る者。このセカイから抜け出るのはいつになるのか・・・

## 第1部隊（前書き）

初投稿、しゅかです。

えーと、シリアスなつもり。ただ・・・

文才は無いですよ！

でわでわ・・・

第1部隊

連合、枢軸の８人はただひたすらに走っていた。なぜなら、敵（機械人間のようなもの）に追われているからだ。走っては追いつかれ追いつかれては敵を倒し倒しては走るの繰り返し。しばらく同じことをしている。

「ちっ。　　たくしつこい奴らですね。　　どこから湧いてくるんだか。」

普段は大人しい日本も多少口が悪くなっている。それを聞いた他の面々は軽く戦慄した。日本がキレかかっている。

日本は切れると手がつけられない。ww2時に発覚した、ここに  
いる全員の暗黙の了解のようなものだ。・・・とか言ってる間にまた  
敵に追いつかれてしまった。しかも倍くらいに増えて。

< 戦闘開始 >

「うわあ！？なんか増えててやりにくいんだけど！！？」

「うるさい、黙ってコイツら倒せ髭が。」

「コルコルコルコルコルコルコルコルコルコルコル  
コルコル・・」

「BANG! ハハハ、こんなのチヨ口いんだぞ!」

「あいやあ！我の中華鍋喰らうよろし！」

「白旗パタパタパタパタパタ……」

「イタリア！お前は下がっている！」

「機械ごとき、せめて美しく散らせてさしあげましょう・・・！」  
あつという間に約半数の敵を倒したが、後から後から湧いてきてキリがない。

誰が始めるでもなく8人は一斉に下がり、手榴弾を投下した。爆発音と共に敵の部品が飛んで行く。そして8人は駆け出した。

< 戰鬥終了 >

<勝者・国>

## 第1部隊（後書き）

読みにくかったらご指摘ください。。。

どうにかして直しますんで・・・

あと、更新めっさ遅いです。そして短いです。

恐れ入ります、すいません。

## 第2部隊（前書き）

亀更新すいません・・・

あいかわらず文才なるものは  
手にしておりませんが・・・

楽しんでやってくれたら嬉しいです！  
でわ・・・

## 第2部隊

「なあ、少し休もうぜ。」

イギリスが言うのももつともで、敵のレベルも少しづつ上がりながらずつと走り続けている。どうやら第一陣は終わったようで、追っ手もしばらくは来ないだろう。それを踏まえた上での言葉だった。「そうですね。そろそろ休まなければ体力もちませんし。」

しばらく休憩をいれることにした。その間木陰に入り他愛もない話をする。

「ヴェー、疲れたよ〜〜。」

「俺も。お兄さん体力戦苦手なんだよな〜!」

「このくらいで疲れてどうする。お前らよく戦争やってこれたな。」

「だって こいつら／この方達 ほとんど戦って ねえし／ませんし。」

「見事にハモったあるな。」

「でもフランス君とイタリア君が戦争にほとんど参加してないのは事実だよな。」

「だって戦うの怖いじゃん!ケンカは嫌いだよ〜!」

「違うの違うの!お兄さんのはわざとなの!それにイタリアに勝ったし!!!」

(イタリア(君)・・・by全員)

そんなこんなしている時、敵第二陣が襲来した。こんどはより人間に近くなっていた。

「次の敵来ちまったあるよ。どうするあるか?」

「また逃げますか。」

そう言つて日本が一步踏み出した時・・・小さくカチリ、と音がした。日本はその場で立ち止まる。

(これは・・・もしや?)

「日本〜どうしたあるか?」

「ああ・・・すみません皆さん。どうやら私はここにいないかならないようです。」

「え？どういうこと？」

「恐らく、地雷を踏んでしまったんだと。」

「「地雷!？」」「

「はい。しかもたぶん、私が退くと爆発します。」

「なんだいそれ!？じゃあ日本はどうするんだい!？」

「私のことはお気になさらず、どうぞ先へ。少し考えがありましてここは私が抑えます。」

そう言つて日本は刀を持ち、軽く笑つた。アメリカの問いに日本が答えていないことは全員が・・・イタリアでさえもが・・・気づいていたが、何も言わずに踵をかえた。ここは日本に任せておいたほうがいい、そう直感し、走り出す。

「皆の御武運を、お祈りいたします。・・・さて、こちらを始めましょうか。」

<戦闘開始>

## 第2部隊（後書き）

・・・撃沈です・・・

自分でもなにかいてるのか分からなく（ry  
ホント、読みにくかったら遠慮なく言ってください！！  
直しますから！！

・・・でわ、これからも亀更新ですが、  
お付き合いいただけたら嬉しいです、ハイ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6785v/>

---

セカイの中で

2011年10月9日08時02分発行